



発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

上の写真の時計は緑地公園内にあります。2009年に高岡アルミ懇話会が自らの45周年記念と高岡開町400年を祝って市に寄贈したものです。上部にソーラーパネルらしきものがついています。さて金屋町通信が13号になりました。昨年7月に創刊して毎月1回発行し、丸1年経ったものです。当初は毎月続けて発行できるかどうか不安だったので不定期発行のつもりでしたが、結果的に毎月発行になりました。何事も案じているより、やれば出来るということでしょうか。

開町400年記念事業

金屋町の開町400年を記念しての事業詳細が見えてきました。要点は以下のとおりです。

記念フォーラム

9月11日(日)13:30~16:00、ウィングウィング高岡4階大ホール。テーマ：次世代に継ぐものづくりとまちづくり。基調講演とパネル討論会で構成。出演者：宮田亮平(東京芸術大学学長)・上野幸夫(富山国際職芸学院教授)・立川善治(現代工芸美術家協会富山会会長)・加藤昌宏(金屋町自治会長)・武山良三(富山大学芸術文化学部教授)・平戸香菜(金属工芸工房かんかスタッフ)。

記念式典・講演会・祝賀会



9月12日(月)18:00~21:00、ホテルニューオータニ高岡。記念講演：伊東順二(富山大学芸術文化学部教授)、来賓：前田家18代当主、石川県知事、橋衆院議員、高橋市長など。

400年記念誌発刊

テーマ「鑄物のまち・金屋～過去・現在・そして未来に継ぐ架け橋に～」

金屋町楽市 in さまのこ

9月24日(土)～25日(日)

ふいご祭り

11月8日(火)13:00～、有磯正八幡宮境内。ふいごによる「神鏡」の鑄造を実演する。

規模縮小して御印祭を開催

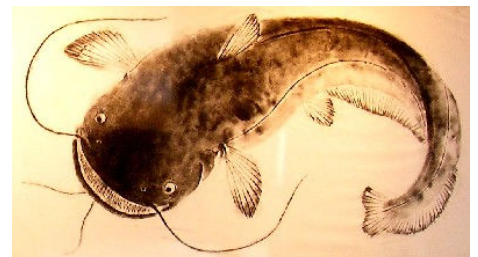


東日本大震災に配慮して、開町400年の御印祭は規模を縮小して行ないました。

しかしながら、町並みの中で行なった御印太鼓、ポケットパークでの囃子方など、初めてのロケーションでしたがなかなかいい雰囲気が出せていたと感じたのは自分だけでしょうか？金屋町の魅力はなんと言っても町並みにあります。町並みを活用できたのが良かったと感じました。

串田保二展

6月8日、鑄物資料館第3展示室において地元の彫刻家「串田保二展」



が開幕しました。7月11日まで開催していますが、6月29日からは作品を入れ替えての後半展になります。

まだ見ていない方は勿論ですが、既に見た方も後半展へ再度足をお運びください。

おもてなし外国語研修塾

5月22日、金屋町まちづくり協議会が平成23年度市民協働事業として「おもてなし外国語研修塾」を開講しました。8月までに中国語を6回、10～12月には韓国語を6回、1～3月には英語を6回行なう予定です。



平成22年度市民協働事業で「金屋町おもてなしマップ」を作りましたが、マップに日常会話用語を3ヶ国語で少し掲載したことから、マップ作りから継続した事業と位置づけています。

なお受講者定員にまだ少し余裕がありますので、興味がある方はご相談ください。

勝興寺修理工事を見学

5月20日、まちづくり協議会の10名が伏木の勝興寺へ見学に出かけました。勝興寺設計監理事務所長で、金屋町の伝統的建造物調査にもかかわっている賀古唯義さんからお誘いがあり、大広間や台所など重要文化財の復元工事現場を特別に見せていただいたものです。

本堂は第1期修理事業として約6年間・18億円をかけて平成16年に復元されていますが、現在は第2期修理事業として大広間および式台ほか10棟の保存修理工事がされているところです。平成17年から平成30年まで、約40億円をか

けての大修理です。



賀古さんの説明は金屋町の伝統的建造物修理を念頭に置いて、我々の参考になるようにと配慮された重要文化財修理の解説でした。

金屋町開町400年記念
シリーズ
金屋町と高岡鑄物の歴史

⑩たたら
高岡では鑄造
作業のことを

「かねふき」と言い、鑄造に使う天秤ふいご（大型の足踏み式送風機）のことを「たたら」と呼んだ。（島根県などでは、砂鉄を原料にふいご炉によって行なう鉄の精錬法のことを「たたら吹き」と呼んだ）「かねふき」は午後8時から始めて翌朝6時ごろに終わるのが通例で、その間8人でたたらを踏み続けるという重労働だった。深夜に作業をしたのは、昼間より夜間の方が溶解炉の火や溶湯（溶けた状態の金属材料）の様子が見やすいからだと思われています。



鑄物資料館には、昭和初期まで使われていたというたたら板も展示されています。